

**+** DIRECT 地震対策 **30** 避難セット **点**

企業導入事例  
ハンドブック

A company introduction example



Emergency kit  
30 Piece Set



●商品のお問い合わせ・ご注文は **有限会社 防災防犯ダイレクト**

フリーダイヤル **0120-952-285**

【受付時間】平日9:00~19:00

24時間受付  
ネットショップ

防災プロの  
地震対策ショップ

<http://www.pro-bousai.jp/>

防災プロ  検索



有限会社 **防災防犯ダイレクト**



法人事務局課長 佐伯 貴志氏  
理事長 犬飼 邦明氏

**Case1**  
社会医療法人ましき会  
**益城病院**  
<http://www.mashiki.jp/>  
医療機関



地震対策30点避難セットを導入していた社会医療法人ましき会益城病院は、2016年の熊本地震で深刻な被害を受けました。現場で指揮を執った理事長 犬飼邦明氏、法人事務局課長 佐伯貴志氏に、非常時において地震対策30点避難セットが実際にどのように使われたかを聞きました。

**地震対策30点避難セットを500個購入。まさか使う事になるとは思いませんでした。熊本地震直後の極限状態を生き抜けました。**

【益城病院について】 熊本県益城町で210床の設備を持つ地域に根差した医療施設です。精神科・心療内科・歯科の診療科で約250名のスタッフが働き、うつ病や認知症など幅広い精神科医療を行っています。

【熊本地震と益城町】 2016年4月14日の21時半頃を皮切りに、熊本県と大分県で相次いで発生した熊本地震。その中でも震度7を観測し、甚大な被害が出た地域が熊本県上益城郡益城町です。

震災の時は本当に大変だったと思いますが、状況を教えてください。

2016年9月14日21時26分に震度7の地震が益城病院を襲いました。

病院は床がグネグネするような感じで大きく揺れ、部屋の中では棚が倒れ、書類や機材などあらゆるものが散乱する有り様でした。電気も水道もダメで病院としての機能は完全に停止し、病室にいた患者さんたちはその後も続いた余震に怯え、本当に不安だったと思います。



▲震度7の凄まじさが伝わる、倒壊した階段や病院のいたるところにできた大きな段差。

病院で定期的に行っていた避難訓練の通り、まず一時避難ということで広い1階のロビーに患者さんたちに集まっていただきました。その時、地震対策30点避難セットもロビーに集めてから一夜を過ごしました。逃げ出す時に、避難セットをすぐに持ち出せるよう準備しておいたのです。

夜明けになり病院機能が電気、水道も復旧の目途が立たないということがわかると、我々は患者さんたちを安全な場所に移動させることに決めました。幸いなことに15日の夕方くらいまでに199名いた患者さんたち全員が転・退院することができました。迅速に対応できたことは、正直ホッとしました。その時、退去患者全員にこの避難セットを背負うよう指示を出しています。

ここで、地震対策30点避難セットを活用することになったわけですね。

入院患者さんたちは、避難セットだけを持って退去してもらいました。

何しろ入院患者さんたちは、自分の所持品がほとんどありません。皆さん、避難セットだけを持って退去していました。自分の水や食料が少しでもあるということで、非常に安心感を得られたと思います。

ですが、その後16日の深夜1時25分に本震(2回目の震度7)が発生しました。その時は患者さん全員が転・退院していて誰もいないわけですが、本震は1回目の地震を凌ぐ大きな揺れで、建物の基礎部分が歪むなど、建物へのダメージも深刻でした。本震の時に病院に人がいたら、死傷者が出た可能性は高かったと思います。

なにせ本来開くべきドアが開かない。建物が明らかに傾いている。30センチメートル以上も地面がず

れているといった状態です。幸い、うちの建物はなんとか建っていられたのですが、完全に倒壊したという病院もあったようです。

うちの患者さんの一部は前日に17の病院に転院していただいたのですが、今度は受け入れ先の病院が本震で機能停止となり、また別の病院に移ったという話も聞きました。その病院も備えをしていましたが、この避難セットはなかった。うちが配布した避難セットは非常に便利だったので、その後も患者さんたちは肌身離さずこの避難セットを持っていたということです。震災を機会にこのバッグのデザインはかなり注目され、評判になったと思います。



▲本震後の院外・院内の様子。職員全員に避難セットを背負うよう指示。



▲犬飼理事長の指揮のもと懸命の復旧作業を続ける

実際に避難セットを使用されて、どのように思われましたか？

本当にいろいろなことに役立ちました。特に感じたことをいくつか説明いたします。

1. なにより「水」に救われた

断水状態でしたので、全員に自分で自由に飲める水が行き渡っていたのは本当に心強かった。生命維持のための水分というのがありますが「自由にいつでも飲める水」が手元にあるということは、とても安心に繋がります。退去時にみんなが落ち着いて迅速に行動できたのも、セット内の保存水があればこそ

だったと思います。

2. バッグのデザインと機能が抜群

バッグから中身を取り出す際、ファスナーの開き方が足りないと中身がわからないが大きく開きすぎると中身が出てしまう。この非常持出袋はほど良い開き方で実用的でした。これは本当によく考えられている。スタッフ全員がずっとこれを背負い続けていま

次ページに続く

したよ。水を使い切ってしまったからは、中に入れるものを各自で入れ替えて持ち運びしていましたが、筆記用具や携帯などを入れるだけでも役に立ちました。そばにあるだけで“お守り”のような安心感があると言ったスタッフもいました。

また、このバッグが白くて目立つというところも良かったですね。大きな地震が過ぎた後は復旧のために病院内に大勢の人がやってきました。その時に現場はかなり混雑するわけですが、ボランティアや電気水道などのインフラ会社の方々の中から、うちの病院スタッフをバッグで見分けられます。さらにその時はバッグにマジックで大きく「理事長 犬飼」などと所属と名前を記入して、外部の人にも見分けが付くようにし、円滑な復旧作業の助けになったと思っています。

### 3. 軍手・レジャーシート

復旧作業時に軍手は必需品ですし、大勢が行き来して床も汚れてしまうのでレジャーシートは実用的でした。

### 4. ダイナモ多機能ライト

夜間動くためにはLEDライトが非常に役に立ちました。電気が使えなかったので、携帯の充電にも使用しました。足りない物資を連絡するのにショートメールを使っていたので、通信手段の確保は必須です。

### 5. アルミブランケット・レインコート

今回は気候のいい春だったので使わなかったが、冬であれば防寒対策としてアルミブランケットが、雨が降ればレインコートが必要になったと思います。



▲被災した院内での復旧作業時には白いバッグに所属と名前を書いて使用した

## 地震対策30点避難セットを導入した経緯と、この製品を選んだ理由は？

2011年に東日本大震災があり、これまでの防災の常識が覆されたことが発端です。

東日本大震災まで、病院の一番の災害は「火事」だと考えていました。燃えている場所から安全なところに避難して、消えたらまた戻れば良いという考え方です。

ところが、大地震で建物自体が崩壊してしまうという事態を目の当たりにし、どこか安全な場所に行けるまで生き抜かなければならないということに気付きました。これはサバイバルです。

そこで、職員も患者も自分の身は自分で守るようしなければいけないと考え、2日間生き抜くための装備を探しました。

### なぜ数ある製品の中から「地震対策30点避難セット」を？

当時もいろいろなグッズがあったのですが、我々は以下の点に注目しました。

#### 1. 背負える

両手が空くことでいろいろな便利さが生まれるし常に身に付けておきやすい。

#### 2. 取っ手の蓄光材で夜間も見える

個人的にこれは便利だと思い重視したところで、実際の震災の時に暗闇で光ることで設置してある場所をすぐ認識できました。

#### 3. 軽くてコンパクト

女性でも一人で運べるものが実用的だろうと考えました。他社製品には大きいものが多かったのですが、この製品は内容物と大きさのバランスが良かったです。

### 500セットの一括購入はかなり多いですがその理由をお聞かせください。

当院は210床あるので入院患者全員分と、さらに職員が100人くらい。プラス職員たちの自宅にも置いておけるように約200。合計して500です。もちろんコストはかかりましたが、職員の福利厚生という点で安全面をサポートするのが大事と考えました。

## 地震対策30点避難セット導入後の管理はどのようにされていましたか？

防災用品なのでいつも「目の届く場所」に配置することを考えました。



▲避難セットは現在でも病院の階段に用意されている被災時の教訓から、すぐ背負えるようショルダーを手前に設置

病棟の階段の壁にフックを付けて、すべて壁に掛けておきました。数が多いため、職員からは「邪魔になる」とか「倉庫に入れませんか」といった意見もありましたが、避難グッズなのだからいつも目の届く場所になければ意味がないということで、この場所に落ち着きました。自宅用の避難セットをもらったスタッフたちの感想も「まあ、あるといいかな」程度のものでした。まさか本当に使うことになるとは、私も思っていませんでしたけど。

現在も被災前と同様に、避難セットを階段の壁にかけています。患者さんとスタッフの命を繋いでくれたものなので、これからも用意しておきたいです。

## 避難セットの導入を検討されている方へアドバイスをお願いします。

被災後の2日間を生き抜くために、この地震対策30点避難セットは必需品です。

震災後に、当院では広報誌や講演などで災害時のことを広く知っていただくための活動を続けています。実際に役に立ったもの、準備しておいたほうが良かったものなどを体験談で伝えています。地

震対策30点避難セットのことは様々な場所で紹介しているほど、あってよかったもののひとつです。被災後の2日間生き抜くために、この避難セットは必需品です。備えておくと安心できると思います。

## 被災の知恵を明日へ～熊本地震から学んだこと～



熊本地震発生後、職員や患者さんは避難セットのバッグを1個ずつ背負って避難しました。バッグには5年保存水500mlが4本入っていて、地震直後の緊張状態による喉の渇きを潤し、冷静さを取り戻せました。簡易トイレ、アルコール除菌ジェル、給水袋、レスキューシート、加熱袋、発熱剤、カイロ、軍手、レインコート、ダイナモ多機能ライトなども、とても重宝しました。

また職員は建物内の片付けや移動時にはバッグに部署名、名前を明記して背後から人物確認が容易にできる状態でバッグを背負いヘルメットを被って安全確保に努めました。



事務部 次長  
宮崎 翔氏



地震対策30点避難セット 企業導入事例

**Case2**  
**ライフプラザ**  
**横浜**  
<http://www.lpy.jp/>  
保険代理店



神奈川県横浜市の保険代理店、株式会社ライフプラザ横浜(以下、ライフプラザ横浜)企画部部长、店舗開発・広告宣伝担当の大木さつき氏に、地震対策30点避難セットを導入した経緯について詳しく聞きました(写真左は 弊社 代表 塚本)

**地震対策30点避難セットを19店舗108人の全社員に配布しました。デザインが良いので、店舗に置いても違和感がありません。**

ライフプラザ横浜は、「ほけんの窓口」のFC加盟店として、首都圏を中心に19店舗を展開している保険代理店です。年商は約11億円。現在「ほけんの窓口」のFC加盟企業としては最大規模です。保険代理店は「人がすべて」なので、社員研修や働きやすい職場環境づくりに特に力を入れています。従業員数は108名。平均年齢38歳のスタッフはすべて正社員です。

**ライフプラザ横浜での、地震対策30点避難セットの配備状況を教えてください。**

**150セットを購入。108個を社員に配布。42個は新入社員向けの予備として保管しています。**

ライフプラザ横浜では、今年(2012年)7月に、地震対策30点避難セットを150セット購入し、19店舗で働く社員108人、全員に配布しました。残った42セットは、今年、来年と入社してくる社員に配布するための予備在庫として、研修室に保管しています。

注文は本部が一括して行いましたが、納品は、19店舗それぞれに分納していただきました。

防災セットは、基本的には、机の下、足もとに置くよう通知しています。その場所であれば、非常時でもすぐに取り出せるからです。

地震対策30点避難セットはバッグのデザインが良いので、店舗という「お客様がいらっしゃる空間」に置いても違和感がありません。今はデスク足もとというお客様からは見えない場所に置いていますが、このデザインなら、仮にお客様から見える場所に置いた

としても違和感はありません。

防災セットを購入した目的は、「地震など災害があった時に、社員一人一人の安全を確保するための備え」と、「災害時のお客様対応の備え」の2点です。また、150セットを一度に買った方が、まとめ買い割引効果が期待できたので、このような購入方法をとりました。



▲白い事務机と、バッグの色が良く調和している。ビニール袋をかけたままにしているのは、「足が当たっても汚れないようにするため」とのこと

**防災セットが災害時のお客様対応の備えになるとは、具体的には？**

非常時には、お困りのお客様にできるだけのことをさせていただきたいと考えております。

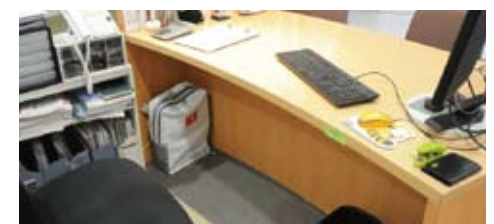
2011年の東日本大震災のときは、横浜スカイビル店の店舗で、60代の女性のお客様がお一人いらっしゃり、「すぐ外に出るのは怖い」とのことでした。店舗がビルの17階にありましたので、男性社員と一緒にいったん1階まで降り、営業しているカフェを見つけ、そちらで社員と共にはしばらく待機しました。すでに電車は止まっていたので、お客様の安全を考え、社員がご自宅まで徒歩でお送りしました。

40~50分かかりましたが、無事にお送りすることができ、その社員としても安心したとのことでした。

今後また地震が起きたとき、同じように、店内のお客様がお困りになることは十分ありえます。そして、弊社としては、お客様のためには、できるだけことはさせていただきたいと考えております。今回、地震対策30点避難セットを導入したことは、そのための備えの一つでもあります。



▲ほけんの窓口 店内の相談カウンター



▲同じ相談カウンターを後ろから見たところ。地震対策30点避難セットが足もと左に置いてある。

**東日本大震災のとき、ライフプラザ横浜での被害はいかがでしたか。**

**帰宅困難者が約10名発生。この経験により、社員の安全と安心のための防災準備の必要性を痛感しました。**

幸い、社員にけが人は発生せず、店舗の物的損害もわずかで済みました。社員の安否確認も、電話やネット、テレビ会議システムを活用して、速やかに実施できました。しかし、帰宅困難者は約10名発生しました。私自身も、その日は帰宅することができませんでした。

かず、大宮から横浜まで歩いて帰れるはずもなく、結局、オープン準備中の店舗で朝まで過ごしました。

その日は、横浜スカイビル店でも、電車が動かず帰宅できなかったスタッフが数人、発生しました。横浜駅は乗降者数が多いため、電車が動き始めてからも、人が駅の外に溢れるほどの混雑だったそうです。この経験により、社員の安全と安心のための防災準備の必要性を痛感しました。店舗スタッフからも、「首都直下型地震が不安。会社としての防災の準備をしてもらえれば」と要望がありました。

**大木様は、どのように帰宅困難となったのですか。**

地震が起きた日には、新店のオープン準備のために、ここ横浜から遠く離れた、さいたま市(大宮)にいました。突然、大きな揺れがきて、天井からつるしたペンダントライトが天井まで跳ね上がって碎け散るなど、一時は恐怖を感じましたが、それ以上の被害には至りませんでした。その日は、電車も動



大木さつき氏

次ページに続く

さっそく、その旨を会社に提案したところ、「会社は、人がすべてだ。すぐに導入しよう」と二つ返事でした。社長自身も、震災当日は帰宅しませんでした。帰宅困難になったのではなく、社員の安否確認や業務継続性の確認を行うために、自発的に会社に泊まり込んだとのことでした。

私が所属する企画部は、店舗開発も担当しており、店舗に設置する什器を選定、管理することも業務のひとつです。その線で解釈すれば、各店への防災セットの配備は、「店舗什器の配備」と見なせます。防災セットの選定は、企画部の私が行うことになりました。

**防災セットはどのように選定したのでしょうか。**

「価格と内容物のバランス」、「ほどよい大きさ・重量」、「納期と納品体制」、「バッグのデザイン」の4点を基準に検討しました。

まずネット検索で、「防災セット」「企業用」「帰宅困難」などの単語を使い、各種製品をリストアップしました。また店舗のセキュリティを依頼している警備会社に「どのような防災セットが良いのか?」、「各企業はどのような防災セットを導入しているのか?」など質問しました。最終的に10製品ほどをリストアップし、比較検討しました。検討したときの比較基準は、「価格と内容物のバランス」、「ほどよい大きさ・重量」、「納期と納品体制」、「バッグのデザイン」の4点です。

するために必要な物品、量を基準にして、「ほどよい大きさ・重量」の製品を選びました。

**基準3：納期と納品体制**

何社かに納期を問い合わせたところ、「納品は2ヶ月後」、「次の入荷は未定」という返事でした。一方、防災防犯ダイレクトだけは、「即納できます」という回答でした。また、19店舗それぞれへの分納も快諾いただけました。

**基準4：バッグのデザイン**

防災セットを置く場所は、店舗という「お客様もいらつしゃる空間」です。よくある、「単なるリュック」のような外観は、店舗という空間に調和しません。その場合、社員はおそらく、そのバッグをバックヤードの奥深くしまってしまうでしょうが、それでは非常時にすぐ取り出せず、防災セットの意味がありません。店舗にも置ける、良いデザインのバッグを選びたいと考えました。

以上、4つの基準で、防災セットの候補製品を比較検討したところ、地震対策30点避難セットが私の求める要件を最もよく満たしていたので、これを採用しました。

**基準1：価格と内容物のバランス**

安い防災セットは、探せばいくらでもあります。しかし、安い製品は、その分、中身が貧弱でした。一方、地震対策30点避難セットは、価格は高価でしたが、内容はそれに見合うだけ充実していました。

**基準2：ほどよい大きさ・重量**

候補製品の中には、内容が充実しているのは良いのですが、持ち歩きが困難な物、あるいは店舗に設置するにはスペースを取りすぎる物がありました。弊社としては、「災害発生時にはむやみに移動を開始しない」という基本原則を徹底するために、会社で待機す



▲社長室では、机の右側に、地震対策30点避難セットを配置。自立型バッグなので、どこにも置ける。

◀予備の42個は、研修室の一角で保管

**地震対策30点避難セットが納品されたときの社員や社長の反応はいかがでしたか。**

**社長や社員からも好反応でした。**

社長からは、「お、ずいぶん格好いいね」と良好な反応でした。社員からも非常に好評で、ある店舗のスタッフからは、「こんなに充実したセットを備えてもらい、本当に嬉しかった。ありがとうございます」と感謝の言葉がもらえました。

この好評を聞いて、「やはり、デザインのいい製品を選んで正解だった」と改めて思いました。社員はみんな、防災セットを揃えるという話を聞いても、スー

パーやホームセンターで売っているような、くすんだ色のバッグに入った物が来ると思っていたようです。ところが実際に来たのは、「内容もさることながらデザインも良い防災セット」でした。その意外性が好評につながったのだと思います。

今後は、防災セットを揃えたことが、「優秀な人材の採用促進」にもつながればと願っています。

**●店舗スタッフの声（ほけんの窓口 ララガーデン春日部店 スタッフ）**



「会社でこのようなセットを準備してくださり、届いたときは感激しました。今後もしもの時にはこのセットがあるという安心感があり、心強いです。」



「防災セットはデスクと袖机の間に挟んでいます。自立型長方形のバッグなので、収納のダンドリが良いです」

**防災セットが採用促進につながるとは具体的には。**

**社員の「働きやすい職場作り」に留意。今回の、防災セットの備えも、職場環境整備の一環です。**

ライフプラザ横浜は、現在、108名の従業員のすべてが正社員です。本社に50坪の社員研修室を設けたり、あるいは店舗のバックヤード部分の設備や広さに気を使うなどして、社員にとっての「働きやすい職場作り」に留意しています。今回の、防災セットの備えも、職場環境整備の一環です。

正直言いますと、防災セット150個を購入すると、たとえ、まとめ買い割引があったとしても、支払う費用は200万円を超えます。会社としても、すぐには

買えない大きな買い物になりますが、これは、社員の安全確保だけでなく、安心して働くことができる、つまり働きやすい職場づくりにも役立つ「必要な投資だ」と考え、購入を決定しました。

ライフプラザ横浜では、これからも年間4~5店のペースで新規出店を続ける予定です。それに伴い、新規採用も継続しますが、今後も新入社員には必ず地震対策30点避難セットを提供していく所存です。

**現在、防災セットの導入を検討している企業に「ある種の先輩ユーザー」としてアドバイスなどあればお聞かせください。**

**防災セットはバッグのデザインが非常に重要です。**

先ほども触れましたが、「デザインはだいじ!」とお伝えたく思います。防災セットの購入のような、地味な活動の場合、「社員受け」、「社長受け」が重要ですが、そこで好印象を得るには、中身の充実もさることながら、第一印象を決定する「デザイン」が非

常に重要です。

**最後に一言おねがいします。**

内容充実、デザイン美しい防災セットをご提供いただき、ありがとうございました。これからも日本の防災のためにがんばってくださいね。応援しています!

※取材日時 2012年9月 ※文中に記載されている数値など情報は、いずれも取材時点のものです。



**Case3**  
**キアゲン**  
<http://www.qiagen.com/default.aspx>  
**医療機器メーカー**



東京都の外資系 医療機器メーカー キアゲン 人事部  
 マネージャー 藤川 洋子氏に地震対策30点避難セットを  
 導入した経緯についてくわしく聞きました。

## 東京、大阪の社員、約100名全員に、 地震対策30点避難セットを配布しました。

キアゲンはドイツを本社とする試薬および医療機器のメーカーです。日本法人設立は1997年。従業員数は、東京本社80名、大阪支社10名、物流センター(東京)10名の合計100名です。

キアゲンでの、地震対策30点避難セットの導入状況について教えてください。

従業員全員を対象に地震対策30点避難セットを購入しました。

キアゲンでは2012年6月に、地震対策30点避難セットと防災ヘルメットとを、それぞれ100個、購入し、キアゲンで働いている社員および非正規従業員、すなわち「キアゲンで働いているひと全員」に配布しました。防災セットの置き場所は従業員の自由に任せています。ほとんどの従業員は机の下に置いているようですが、棚に置いている人もいます。ヘルメットは、防

災セットと一緒に机の下に置いている人が大多数ですが、机の脇にフックでかけている人もいます。

キアゲンでは、この「防災セットの配布」のほか、防災対策として、「緊急連絡網の整備」、「緊急時の避難場所の情報共有」を行いました。防災対策を強化することになった契機は、やはり昨年3月の東日本大震災を経験したことです。

東日本大震災の時、キアゲン東京本社ではいかがでしたか。

大きく揺れました。約10人が帰宅せず、会社に泊まりました。

ビルの6階にあるキアゲンのオフィスも、立地が、勝岡(かちどぎ)という海岸近くの埋め立て地であったせいなのか、大きく揺れました。約10人が帰宅せず、会社に泊まりました。私自身も、自宅が横浜だったので、その日には帰宅できず、結局、都内の友人宅に泊まりました。幸い、オフィスに物的被害、人的被害はありませんでしたが、これを契機に、社内や経営陣に

も、災害対策の必要性が強くと認識されてきました。緊急連絡網の整備や避難場所の情報共有など基本施策はすぐ実施しましたが、個人的には防災セットの配布も重要だと考え、経営陣に提案したところ、承認されたので、その後、ネット検索で「防災セット」などのキーワードで、各製品をリストアップし、比較検討しました。

何種類ぐらいの防災セットを比較検討したのでしょうか。

約10社分ほどを、ざっと眺めながら、まず足切りをしました。

検索結果として表示されたホームページ約10社分ほどを、ざっと眺めながら、まず足切りをしました。足切りの基準は、防災セットの中に「ダイナモ多機能ライト(携帯電話を充電できる手回し充電式ライト)」が含まれているかどうかでした。

防災セットの提供会社が有名であるかどうかは、足切りの基準にしましたか。

それは基準にはしませんでした。会社の知名度よりも、セットの中身そのものの方が大事だと考えていたので。

ダイナモ多機能ライトを重視したのはなぜですか。

去年の東日本大震災での自分自身の経験からです。3月11日には、夜半に入って、携帯電話の電池が切れてしまい、家族には、一晩、連絡できませんでした。災害のとき、たとえ一晩であっても家族に連絡が取れないのは、これほど不安なことなのだ、その時、ひしひしと思いました。

この経験があったので、手回しで発電して携帯電話を充電できるダイナモ多機能ライトは、防災セットに必須だと考えました。

ダイナモ多機能ライトの有り無しを基準に10製品を足切りした結果、地震対策30点避難セットを含む3製品が、最終候補として残りました。

それら三製品をどのように比べたのでしょうか。

「中身の充実度」と「実績」において防災防犯ダイレクトが最も優れていました。

「内容物の点数」については、防災防犯ダイレクトが、候補製品の中で、一番、点数が多かったです。またリュックの白のデザインも清潔感があり、形も四角で保管しやすく、好感が持てました。内容物では、食料や水など基本的な物品の他に、簡易トイレや水のいらぬシャンプーなど衛生小物が充実している点が良いと思いました。ドイツ大使館をはじめ多くの企業に導入実績があったことも、選考の上で大きなプラスでした(弊社はドイツ系の外資系企業なので、ドイツ大使館への導入実績は特にプラスでした)

価格については正直なところ三製品の中で防災防犯ダイレクトがいちばん高価であり、最安の物と比べると2.5倍高価でした。しかし、やはり「中身の充実度」と「実績」において防災防犯ダイレクトが最も優れていたため、これを選びました。経営陣にも内容の充実度を説明し、承認を得ました。

購入前に「懸念」はありましたか。

女性社員からは「ちょっと重い」という意見も出ました。でも重量が大きいことは、品数が多いことの

裏返しなので仕方がないといえます。また、中身が多すぎて重いという問題は、自分にとって不要な物を取り出せば解決できることです。選考する私としては、「必要な物が足りない」という苦情が出ることは避けたいと考えました。「足りない」ことは後から解決できませんから。

先輩ユーザーとしてのアドバイスなどあればお願いします。

さっき言ったことの繰り返しになりますが、個人的には、携帯電話の充電ができるダイナモ多機能ライトは必須だと思います。水や食料はもちろん必須ですが、家族と連絡が取れることも、それと同じぐらいに切実だからです。

最後に一言お願いいたします。

これからも優れた商品を提供し、日本企業の防災力向上のためにがんばってください。今回は、良い防災セットをご提供いただき有り難うございました。

※取材日時 2012年7月  
 ※文中に記載されている数値など情報は、いずれも取材時点のものです。



地震対策30点避難セット 企業導入事例

**Case4**  
**松井電器産業**  
<http://www.matsuidenki.co.jp/>  
 製造業



栃木県 鹿沼市の製造業、松井電器産業 鹿沼事業部 総務課 金子昭氏に、地震対策30点避難セットを導入した経緯について詳しく聞きました(写真右は 弊社 代表 塚本)

## 事業継続性確保のための備えとして、鹿沼、烏山、福島の3工場に地震対策30点避難セット20個を配備しました。

松井電器産業では、各種電子機器のプリント配線基板への実装、回路組立、製造を手がけています。製造した部品は、自動車やプラズマテレビなどで使われています。近年は、EV充電器つき多機能型LED街灯EELを開発しました。工場は、栃木県鹿沼市、那須烏山市、福島県福島市の合計三箇所。設立は昭和42年、年商は約20億円、従業員数は鹿沼工場 約180人、烏山工場 約80人、福島工場 約40人の 合計 約300人です。

松井電器産業での地震対策30点避難セットの導入状況を教えてください。

国内3工場に地震対策30点避難セットを配備しました。

松井電器産業では、非常時での事業継続性を確保することを目的に、2012年6月に、地震対策30点避難セットを20個、購入しました。現在、鹿沼工場に

10個、烏山工場に5個、福島工場に5個配備しています。鹿沼工場では、敷地内の消防ポンプ小屋を防災セットの保管庫としています。

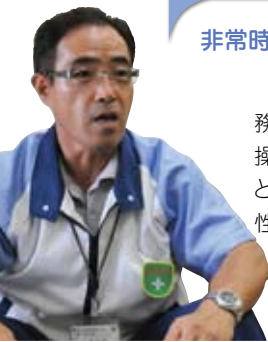
「非常時の事業継続性の確保を目的に購入した」とは具体的には、

非常時の居残り要員が「何があっても最低3日は生存していく」ための備えです。

松井電器産業では、シフト勤務により24時間体制で工場を操業しています。地震や火災など非常事態時には、事業継続性の確保のために、何人かが

工場に残って宿泊することがあります。2011年3月11日の東日本大震災のときは、私はいったんは帰宅しましたが、翌日3月12日には入社し、その日は会社に宿泊しました。

今回の地震対策30点避難セットは、今後、そのような泊まり込みが発生する場合に備え、居残り要員が「何があっても最低3日は生存していく」ための備えとして、購入しました。



金子 昭氏

### 購入目的の中に「帰宅困難者への支援」という要素はありますか。

厳密に考えれば帰宅困難者への対策も必要ではありますが、弊社の場合、帰宅困難者は発生しにくい環境なので、ひとまずは最重要視しておりません。弊社では、鹿沼、烏山、福島のどの工場でも従

業員はほぼ全員が車で通勤しています。今後ももし地震が起きたとしても、車を使えば、自宅まで帰り着くこと自体は、まずは可能だと予測されます(東日本大震災の時も帰宅困難者は発生しませんでした)。したがって、今回は、帰宅困難者への対策は、最重要視はしませんでした。



▲鹿沼工場では地震対策30点避難セットを消防ポンプ室に保管

### 東日本大震災の時は、松井電器産業の被害はいかがでしたか。

今までに経験したことのない揺れに見舞われました。



ここ栃木県、鹿沼市でも震度6弱の、今までに経験したことのない揺れに見舞われました。幸い、鹿沼、烏山、福島の上三工場のすべてで、人的被害はありませんでした。鹿沼工場では、14時46分の地震発生直後に、いったん中庭へ全員が退避。操業を停止し、全員帰宅しました。夜勤も中止にしました。翌12日朝から、出勤が可能な社員だけ入社してもらうことにしました。

幸い、電気や電話などライフラインの停止はなく、調べたところ、建物、機械、設備への被害もほとんどないと分かったので、その日は出勤した全員で操業再開のための努力をし、その甲斐あって、その日(12日)の夜には操業再開が可能になりました。鹿沼よりも揺れが大きかった栃木県北部、那須の烏

山工場でも三日後には、震源地にさらに近い福島工場でも一ヶ月後には、工場が再開できました。

今回の地震では、設備や在庫商品など物的な面で被害は発生しませんでした。事前から施していた耐震補強が功を奏したといえます。

しかし、居残り要員のための「備蓄」については、震災前までほとんど考慮しておらず、この点が、会社全体の防災対策の中の「強化すべき課題」として明らかになりました。弊社は、中小企業であり、予算も決して潤沢ではないので、あまり大がかりな施策はできませんが、それでも、工場としての事業継続性を保つための「必要最低限のこと」は、確実に実施する必要があります。

以上の理由により、非常時の待機要員用の防災セットを備えることが決まり、その後は総務課長である私が、製品の選定を開始しました。2011年9月のことです。

次ページに続く

防災セットの選択はどのように行ったのでしょうか。

候補製品を約10品、リストアップし、それらを相互比較しました。

ネットで「防災」「備蓄」などの用語で検索しながら候補製品を約10品、リストアップし、それらを相互比較しました。

### 各製品を比べたときの比較基準(求めた条件)を教えてください。

今回、採用する防災セットに求めた条件は、「内容物が必要十分であること」、「価格が適切であること」、「防災に対する真摯な姿勢があること」の三点でした。

地震対策30点避難セットは、価格面では、正直なところ、最も高価でしたが、一方、内容の方は最も充実しておりました。他の防災セットでは、絶対価格

が安い物は、中身もわずかしが揃っておりません。「費用対効果」という観点では、地震対策30点避難セットが最も優れておりました。

また、防災への姿勢という点でも、中には、震災に便乗したような、いい加減な会社もある中で、防災防犯ダイレクトは、商品の内容や、ホームページの記述から、真摯な姿勢が感じられました。以上、費用対効果と信用との両面で防災防犯ダイレクトの地震対策30点避難セットが最も優れていたため、これを購入しました。

また地震対策30点避難セットは、バッグのデザインが優れていたことも、大きな好印象でした。

「バッグのデザインが優れていた」とは具体的には。

防災セットのデザインは、すぐに見つけられる、よく目立つデザインが良いといえます。

防災セットは、非常時の気が動転している時に使う物なので、デザインは、すぐに見つけられる、よく目立つデザインが良いといえます。地震対策30点避難セットは、白地に赤十字をあしらったデザインでよく目立ちます。またバッグの素材も、防災素材でできているので、火事の時でもバッグが燃えて破

れることはありません。

他の製品の多くは、市販の普通のバッグを使っており、こちらは火の粉でもかかればそこが燃え破れてしまい、内容物を運べなくなる恐れがあります。非常用のバッグですので、バッグの堅牢性、防災性は重要です。

最後に一言、お願いいたします。

「その日」のための備えは怠ってはならないと考えています。

今回、地震対策30点避難セットを導入したことで、松井電器産業の防災体制は一步ではあります。前進いたしました。こういう物はずっと使わないでいられればそれに越したことはありませんが、「その日」のための備えは怠ってはならないと考えています。先月、私は防災士の資格を取得しました。防災は、自助、共助が重要です。松井電器産業は今後と

も従業員の安全と事業継続性の両方を確保できるよう、防災体制を着実に推進していく所存です。

防災防犯ダイレクトさんも、防災に対する真摯な姿勢を持ち続け、日本の企業の防災力向上のために尽力していただくことを希望します。ひきつづき、がんばってください。

※取材日時 2012年8月 ※文中に記載されている数値など情報は、いずれも取材時点のものです。

## 地震対策30点避難セット 企業・法人様向け FAQ



Q. すでに保存水・非常食を備蓄しているが、非常持出袋は必要か？

保存水・非常食が、被災時に会社に留まる社員のための備蓄であるのに対し、非常持出袋は、帰宅を希望する社員の帰宅支援や、安全な場所へ避難する際の持ち出しを主な目的としています。

Q. 社員は帰宅させず会社内に留まらせるべきでは？

東京都では、災害時に社員をむやみに帰宅させないよう指導しています。しかし、東日本大震災の当日、社内に留まらず帰宅を希望する社員が多かったのも事実です。弊社の調査では、帰宅を希望する理由として、「自宅が心配」「家族と過ごしたい」「ビルは揺れが大きくて余震が怖い」などの声が聞かれました。会社として、社員の安全な帰宅をサポートするための備えが求められています。

Q. 地震対策30点避難セットは1セットで何人分・何日分か？

1セットで、1人分・1~2日を想定しています。社員人数分の備蓄をお勧めします。

Q. 地震対策30点避難セットの他社との一番の違いは？

非常持出袋の機能性とデザイン性の高さが評価されています。日本防災協会認定の防災素材、雨水の浸入を防ぐ止水ファスナーを使用。停電時に設置場所がわかるよう暗闇で光る蓄光材、避難時の安全性を高める反射材を配置。肩ベルトを使用しない時にコンパクトに収納できる肩ベルト収納ホックを取り付けるなど、他社製品にない高い機能性を持った非常持出袋です。

デザインは、2012年度グッドデザイン賞を受賞。自立型でスタイリッシュな形状のため、社員のデスク下や、お客様の目に付く場所にも設置することができます。



Q. 社員の帰宅支援、備蓄用途のほかに、どのような導入例があるか？

お客様・来訪者の帰宅支援用、社員の自宅設置用に支給、創立記念品として関係者に配布などの例があります。

Q. 地震対策30点避難セットのサイズ、重量、納品形態は？

- 非常持出袋サイズ:385×290×130mm
- 個包装ダンボールサイズ:405×305×160mm
- 総重量:約5kg

セット内容をすべて非常持出袋にセットした状態で納品いたします。  
1箇所に2個以上納品する場合、個包装ダンボール2~4個を複数個用ダンボールでまとめて納品いたします。